

令和5年度 第1回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】 令和6年1月18日（木）午前10時から午前11時

【場 所】 豊田市役所南庁舎7階 南74委員会室

【出席者】（委 員） 今西 モト子 （豊田市ボランティア連絡協議会）
畝部 真紀 （豊田市国際交流協会）
尾原 洋子 （豊田市ファミリー・サービス・クラブ）
斉藤 尚文 （中京大学名誉教授）《会長》
澤口 文康 （豊田市PTA連絡協議会）
鈴木 聖人 （（一社）豊田青年会議所）
高村 伸一 （豊田市区長会）
竹内 正美 （小原地域会議）
谷口 功 （椋山女学園大学）《副会長》
松尾 英樹 （豊田市高齢者クラブ連合会）

（出席委員:計10人）

【欠席者】（委 員） 大河原 真吾 （あいち豊田農業協同組合）
佐藤 優衣 （豊田学生によるまちづくり）
藤嶋 伸一郎 （豊田商工会議所）
湊 裕 （連合愛知豊田地域協議会）

【付議説明者】 野依 真人 （企画政策部企画課 課長）
丹羽 広和 （企画政策部企画課 副課長）
宮川 恭子 （企画政策部企画課 担当長）

【事務局】 塚田 良 （総務部副部長）
藤田 憲彦 （総務部行政改革推進課 課長）
伊藤 亮 （総務部行政改革推進課 副課長）
山崎 亜純 （総務部行政改革推進課 主査）

- 【次第】 1 開会
2 委員の紹介
3 地域経営懇話会の概要説明
4 会長及び副会長の選出
5 会長あいさつ
6 議事
「第2期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」2022年度
実績評価について 【報告】
7 閉会

（文責は事務局。訂正することがあります。）

【議事】「第2期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」2022年度実績評価
について（報告）

○委員

・持続可能な都市経営とは何か。17年前に名古屋から小原へ移住した。老人クラブに入ったが2, 3年後になくなった。ただ続いていけば良いのか、その先の展開があるのか。今はガラケーを使っている、デジタルは拒否している。わざわざ田舎へ移住したのは、カウンターカルチャーとしての里山だから。デジタルを進めると同時に、カウンターが必要。何でも発展すればいい訳ではない。

○説明者

・きちんとした定義は無い。リーマンショックや災害時のような財政影響が大きい事案が発生したときでも、扶助費や福祉費など義務的経費は必要予算として持続的に想定しないといけない。また、都市基盤は合併に伴う距離等を考えながら、高度経済成長期に建てた建物の維持管理や安全性を長期的に考えていかなければならない。その上で、一定の政策を実施できるように予算を意識する必要がある。このように市役所としても経営を意識していくことと考えている。

○委員

・行政の言う、都市経営の視点も当然ある。一方で、暮らす人たちにとっての持続可能とは、自分の尊厳を保てるような暮らしを維持できることだと思う。また、コミュニティや村の維持の問題もある。コミュニティや村としては閉じていないといけないかもしれない。そういった選択肢も含め、行政の視点、市民の視点、村の視点で持続可能性はいくつかの議論がかみ合うかなと思う。

○説明者

・これまで通りの右肩上がりの考え方では持続が困難になる。より時代に合わせて、より市民が満足に暮らせるように考えていきたい。縮めて再編するだけでなく、くっついて、さらに活性化するなど。また、建物も、2個を1個にしても、時代に合わせて使いやすいものにするなど。さらにデジタルも使えば距離の問題も緩和できるのではないかな。そういった変化をしていかないと、持続可能性は担保できない。

○会長

・豊田市としてそのようなことを考えているのか。

○説明者

・第9次豊田市総合計画の策定をしているが、持続可能性や変化を意識している。人のつながりも取り組まなければならない。市内28の地域会議や市内の4つの大学、高等専門学校へ意見を聞く場を設けている。市ホームページにも意見を聞く場を設けている。意見を聞きながら第9次豊田市総合計画の策定をしている。

○委員

・高齢者が、デジタル化という言葉を理解できるか。これをやったら、こういうメリットがあると教えてほしい。個々の取組がどのように全体へ寄与しているか。「ずっと元気！プロジェクト」に取り組んだことによって、どれだけの医療費が削減できたかなど。施策に対して、個人はどのようなことを心掛ければよいか教えてほしい。効果を分かりやすく数値化してほしい。

○説明書

・個々の事業の目標や成果の見せ方を分かりやすくしたい。一緒に取り組んでいただいた成果をしっかり共有したい。

○委員

・区長会のデジタル化が進んできた。ありがたい。デジタルをみんなが使えるようになるといいが、不得意な人もいるので課題に感じている。木が倒れそうなど住民から苦情があったときに、現場の写真を撮ってデジタルで申請できるようになりスピーディーになった。

・まちづくりについては、若い人が住んでくれるような魅力あるまちにしたいと考えていて、中学生からSNSを活用した情報発信というアイデアをもらったので、取り組んでいきたい。自治区の情報を発信できるようホームページを活性化させたい。各自治区がホームページを作れるようなバックアップがあると良い。

・豊田市は交通が不便。道路が渋滞するし狭い。商店街が寂しい。豊田スタジアムやスカイホールでのイベント時に魅力的なことができると良い。

○説明者

・スマホ教室など、デジタルが不得意な人に個々で支援する取組は今後ほしい。また、いろいろな世代に教えてもらいながら、コミュニケーションの場にもできると良い。

・まちづくりについては、地域のこどもたちも関われるような仕組みづくりを進めたい。次の総合計画の大きな課題。

・公共交通機関については、税金を使っても、空気を運んでいる状態という指摘もある。車での移動を好む人もいて、そのバランスが課題。地域の特性に応じて、デマンドバスなどを考えている。鉄道の高架化も進めているが、リモートワークなどの影響もあり、乗車人数が減っている。

・商店街が寂しくなったのは皆さんが利用しなくなったことも要因の一つ。商店は、移動販売にも取り組んでいる。

○委員

・上郷地区の生活圏は岡崎。申請のデジタル化が進み、市役所へはよっぽど来ない。KiTARA（キタラ）は稼働しているか。KiTARA（キタラ）の駐車場は3時間まで無料になっているが、映画を2時間半観たら、ご飯を食べる時間がない。映画に加えて、買い物や食事ができると良い。KiTARA（キタラ）の近くには5時間まで無料になる駐車場があるが、KiTARA（キタラ）内の駐車場以外を使うメリッ

トを感じない。

- ・畝部はおいでんバスが来ない。南部の過疎化を心配している。

○説明者

・駐車場許容量のバランスもあるが、都心全体で歩いて楽しめるまちを目指している。KITARA（キタラ）付近の5時間無料の駐車場から映画館までの歩く空間も楽しめると良い。

- ・南部については、周辺市町と連携していきたい。人口は減っていくので、距離と便利さのバランスの最適化を考えていく。